

有識者意見の概要及び意見に対する見解

| | |
|---|--|
| 1. 調査研究課題名 インフラ・公共サービスの効率的な地域管理に関する研究 | |
| 2. 有識者意見の概要及び見解 有識者： 宇野 二郎氏（横浜市立大学国際総合科学群 教授） ラウパッサ・スミヤ ヨーク氏（立命館大学経営学部国際経営学科 教授） | |
| 意見の概要 | 意見に対する見解 |
| 日本の文脈でいうと、ノルトライン＝ヴェストファーレン州など旧西ドイツの人口減少地域の方が興味深いのではないかと。特にルール工業地域の人口減少地域などが適切ではないかと思う。 | 1年目のヒアリング調査にノルトライン＝ヴェストファーレン州の都市（ヴッパータール、イーザーローン、エルリングハウゼン）を選定した。 |
| 会社を分社化しているメリットについては確認してほしい。出資形態などもそれぞれ違う。 | Wuppertaler Stadtwerke や Eichsfeldwerke へのヒアリングから、分社化しているメリットについて、黒字事業と赤字事業を分離することで、特に黒字事業部門での資金調達が有利に進められることが挙げられた。 |
| シュタットベルケを参考にする場合は、都市計画・街づくりにシュタットベルケがどう関わっているかということがポイントになると思う。 | Wuppertaler Stadtwerke 、 Stadtwerke Oerlinghausen 、 Stadtwerke Ulm/Neu-Ulm などで都市計画や交通、まちづくりに関するヒアリングを行うことができた。 |
| シュタットベルケの構造を日本にどう転用するのは難しい課題。大きいスキームは難しいだろうから、まずは事業の棚卸からはじめて、コントロールできる資源（リソース）はないのかという確認をして（焼却炉、病院、公営住宅、ガス等）、Public Value の観点から価値を生み出せるものを見つけることが大事である。 | Public Value 等の地域社会・経済への効果については、本調査では分析に至らず、今後の課題としている。 |